

●にじが丘自主防災会役員会を開きました。

10月3日（土曜日）16時から、公民館で「自主防災会役員会」を開きました。役員会では、令和2年度にじが丘自治会総合防災訓練の取り組みについて話し合いました。

今年の「総合防災訓練」は、自治会総会で実施を決めていますが、新型コロナウイルス感染拡大対策が必要なことから、今年は、簡素な形で取り組む事とします。

話し合いで確認された内容は、以下の通りです。

1. 開催日時

令和2年11月15日 午前10時から取り組み開始。

※取り組み開始の合図として、今年も**10時に花火を打ち上げ**ます。

2. 被害想定

令和2年11月15日（日）午前10時 南海トラフを震源とする震度7の大地震が発生し、家屋の一部倒壊や家具の転倒により負傷者が発生した模様。**住民の安否確認と一人住まいの高齢者の安否確認も同時に行う。**

3. 本年度訓練テーマ

安否確認の表示（**黄色の布掲出**）と共に、家族で災害について話し合う機会に！

4. 今年の訓練内容

①安否確認訓練

- ・組全世帯の安否確認（黄色い旗確認）
- ・各組長は黄色い旗掲出数を確認し、世帯数と掲出確認数を訓練本部（公民館に設置）に報告する。
- ・担当役員は、安否確認表示を実施後、本部へ参集
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、**避難行動訓練等を行わない。（グランド集合なし）**



②一人暮らしの高齢者宅安否確認

民生委員が担当する高齢者の安否確認を行う。黄色い旗が出ていない場合は声掛けする。

確認後訓練本部（公民館）へ報告する。

5. その他

雨天決行。大雨・暴風雨等の警報発出時は中止します。

各組長の任務分担詳細については、10月18日（日）の組長会議で確認します。

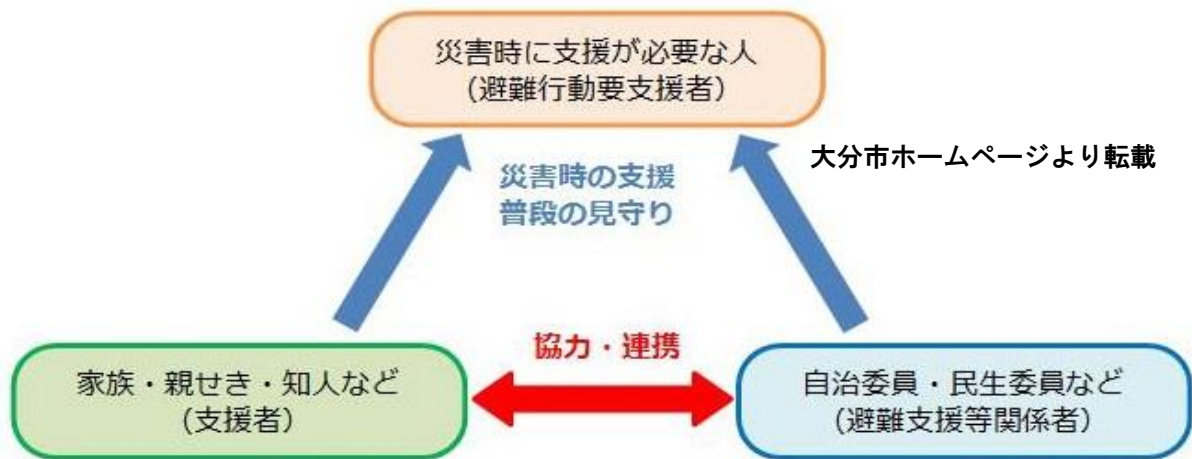
●災害時要配慮者は・・・

地震や風水害といった自然災害などから自らを守るうえで、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、避難するために、周囲の支援や配慮が必要になる方たちのことを言います。

一般的に、体力的な衰えのある高齢者をはじめ、病気や何らかの障がいがある方、危険を判断し的確に行動できない乳幼児、そのほか妊産婦、日本語が理解できない外国人などが挙げられます。

居住の地域に多くの災害時要配慮者がいることを理解いただき、災害時には可能な限り地域で協力し合って避難するように心がけてください。（大分市ホームページ転載）





「にじが丘防災士会」では、災害時要配慮者の方々について、できる限り年に一度、総合防災訓練の前頃に、自治会長と共に伺いし、もしもの災害が発生した場合（その時々の被害状況などの判断にもよりますが）避難する際の支援体制をお伝えしています。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、実施を検討中です。

大分市に「要配慮者」（要支援者）として届け出している場合、自治会長が個人情報に配慮の上、それを確認できることになっており、町内の防災士が自治会長（自主防災会会長）の要請で、支援の行動をとれるようにしています。

また、高齢者の一人住まいの方々は、日ごろから民生委員さんがお世話しています。防災士会は、民生委員さんとも連携をとれるよう、年に数回打合せを行います。

我が家の防災対策

ある防災士の防災対策



①腰高以上の全ての家具を壁に金具を使用しての固定と突っ張り棒の二重の家具転倒防止を実施しています。



②非常持ち出しリュック（40ℓ）・ヘルメット、スニーカー・懐中電灯・ランタンを寝室に準備。

③長期保存水と食料品（アルファ米・パン缶等）と、（ロリングストックとして、レトルト食品・パック米・カップ麺・缶詰等）を一週間分準備しています。



2020年09月30日 新聞大分版 日頃から防災のはなしを

先日、佐伯市で「地球温暖化と異常気象」をテーマに出前講座をさせていただきました。この1月、1時間に117.5mmの息苦しくなるような猛烈な雨がこの佐伯市で降るとは、私にとっては真冬の。まさかの出来事でした」と切り出しました。

温暖化が進行すれば、このような異常が異常でなくなり、想像できない豪雨・猛暑などが頻発する時代が来る。これまで大災害のたびに「想定外」という言葉が聞かれましたが、もう「想定外」は通用しない。食糧生産や生物多様性への影響、感染症拡大など温暖化の実態と将来予測にふれ、地産地消、CO₂削減策、災害への備えなどを話し講話を講じた。

講話後、妻への土産に佐伯の名物

日頃から防災のはなしを

のまんじゅうを求めに店へ入ると、「ご自由にお持ちください」と陳列ケースの上にはがき大の紙。何かのレシビだろうと思って一枚をポケットへ入れました。

帰宅して、妻とまんじゅうをいただきますながら紙をみると、「災害に遭った時①片づける前に被害状況の写真を撮る②水につかった跡の分かる写真を」と分かりやすく被災後にするべきことが書かれていました。

菓子店主のさりげない心遣いが、お茶を飲みながら「防災のおはなし」をする文化を醸成し、温暖化抑制、守れる命・助かる命を救うことへつながっていくのでは、とうれしくなりました。

他の地域でもこのような取り組みが広がることを期待します。

(気象予報士)

災害

は忘れる暇なくやって来る

花宮広務

大分県防災アドバイザー 花宮広務さん(元大分気象台長) 連載(朝日新聞)